

高病原性鳥インフルエンザの発生を想定した
地域における初動防疫体制整備

丹後家畜保健衛生所

○ 西井義博 岡田幸大 極山 太

【はじめに】 2010年以降に国内で発生した高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）に対して、現地対策本部を構成する丹後広域振興局（以下、局）と当所が初動防疫体制の整備に取り組んできたので報告する。【体制整備】当初、2010年の宮崎県で発生した口蹄疫に対応し、局長を中心に関係部局の代表者からなる「連絡会議」を設置し、初動対応について協議を開始していたが、国内でHPAIが発生したためにその対応へシフトした。その中で、迅速な初動防疫には現地における必要資機材の調達が最優先課題と位置づけ、当所が作成した資機材リストに基づき、調達方法を整備した。併せて、即座に動員可能な局職員（5名）を選定して、初動防疫の支援を行う「スターターチーム」を創設し、資機材の迅速な搬送体制を確立した。また、初動防疫における各種課題を部局ごとに作業分担後、進捗整理表で一元管理し、2011年3月に「丹後地域HPAI防疫対応マニュアル（暫定版）」の策定に達した。【演習・検証】2011年12月にマニュアルに基づいた実地演習を開催し、資機材の搬送、前線基地の設営、防護服の着脱、防疫作業者の感染防護作業等を確認した。演習後の関係部局による「検証会議」では、机上の想定を超えて各作業の細部に多くの課題が浮き彫りとなった。今後も「連絡会議」において、協議を継続していく予定である。